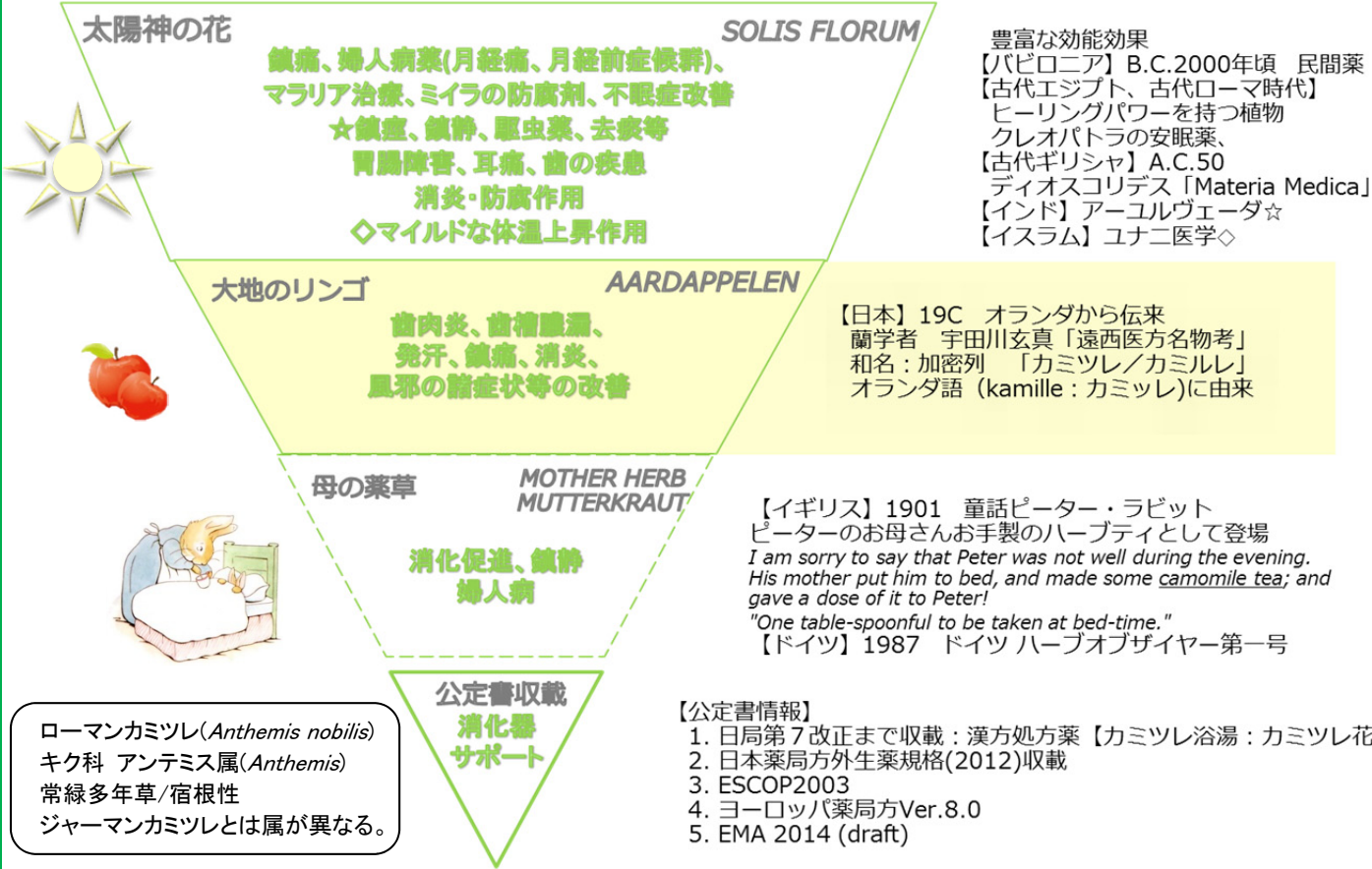


カミツレ乾燥エキス Chamomillae flor extr. s. sicc

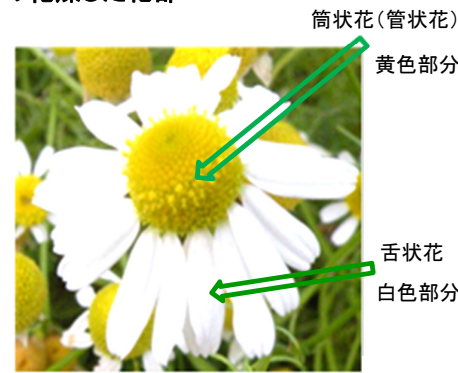
I. カミツレとは: 太陽神の花 大地のリンゴ 母の薬草(母性の健康) 消化器のハーブ(腸の健康)

Matricaria chamomilla: ジャーマンカミツレはキク科シカギク属 (*Matricaria*) の1年草でヨーロッパ東部と南部および中東を原産とする。草丈約15~60cm、花は初夏から咲き始める。"Chamomile"の名は、ギリシャ語の「大地のリンゴ」に由来する。属名の "*Matricaria*" は、「子宮」「母 生み出すもの」を意味し婦人病の薬草としても知られる。



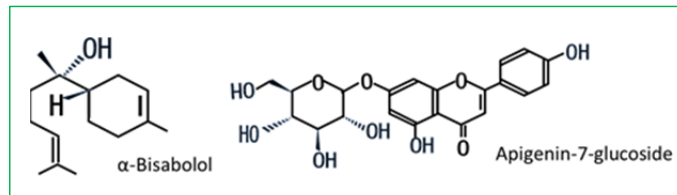
カミツレ乾燥エキス

- ☆ 原料: キク科 (Asterales) シカギク属 (*Matricaria*) カミツレ (*Chamomilla recutita* L.) の乾燥した花部
- ☆ 標準化された製造工程: PIC/S GMP, ISO9001 取得植物抽出物専門工場にて製造
- ☆ 指標成分による品質管理:
Apigenins (Apigenin-7-glucosideとして) 2.50~7.00 % (HPLC)
精油 0.4~0.8%(水蒸気蒸留法)
 α -Bisabolol パッチごとに定量(GC)
- ☆ 抽出溶媒: 水/エタノール
- ☆ 適用: ESCOP2003 より
(内服)軽度痙攣、腹部膨満、鼓腸および嘔気など消化器における愁訴の対処療法
(外用)皮ふ及び粘膜の軽度炎症やかぶれ
口腔および歯肉:うがい薬 気管:吸入 肛門や陰部:入浴剤、軟膏
- ☆ 推奨量 : 当社乾燥エキス 750mg/日 (ESCOP2003: 50~300mg 1日3回)
- ☆ 包装形態 : 1 kg Net 包装 20 kg Net 包装



II. カミツレと成分

- * 精油(0.5~1.5%) :
 α -Bisabolol および Bisabolol oxide 類、Matricin、Chamazulene(カモミールブルー: 蒸留により Matricin から生成) など
- * フラボン誘導体 : Apigenin-7-glucoside など
- * その他: Coumarin 類、Phenolic acid 類、多糖類など



III. 有効性の検証① 薬理学作用

①抗炎症作用(in vivo) Planta Med 1984;51:359
☆カミツレ花 20gを 42%EtOH 水 100ml で煎じて抽出した乾燥エキスを、2.5%Croton オイルで浮腫を誘発したマウスの耳に 0.75 mg 塗布したところ、カミツレ群はコントロールに比べて浮腫を 23.4%抑制した。塩酸ベンジダミン(NSAID)0.45mg 塗布では抑制率 26.6%であり、その炎症抑制効果はカミツレ花 0.75mg と同程度であることが確認された。(in vivo)

②傷の治療効果 (in vivo) Phytother Res. 2009;23(2):274
☆外傷性潰瘍を持つ 125 匹のラットを用いて、カミツレ軟膏剤とステロイド剤(トリシノロンクリームおよびプロピオン酸クロベタゾール軟膏)のコントロール対照比較試験を実施。病巣部の回復は、カミツレ軟膏剤が治療開始 5 日後であったのに対し、他の試験群は 14 日後と回復が遅かった。またカミツレ軟膏は 9 日後には完治し、ステロイド剤と比較して完治までの期間が有意に短縮された。カミツレ軟膏は傷の治療促進作用がステロイド剤よりも優れていることが示唆された。(in vivo)

IV. 有効性の検証② 臨床試験

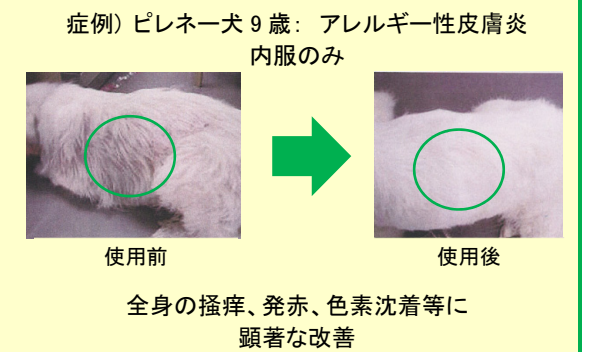
①月経前症候群(PMS)の心身愁訴に対する効果 Complement Ther Clin Pract.2014;20(1):81
☆目的:カミツレカプセル剤とメフェナム酸(MS)錠の PMS に対する効果の確認 ☆対象:PMS と診断された 90 名の女性
☆方法:ランダム化二重盲検試験 カミツレ製剤 100mg又は MS 剤 250mg 3 回/日 月経周期 2 サイクル
☆結果:カミツレ群は MS 群に比較してイライラ感が有意に減少した($p < 0.001$)。身体的な症状については有意な改善は認められなかった($p > 0.05$)。

②小児下痢に対する効果 Arzneimittel-forschung.1997;47(11):1247
☆目的:カミツレ配合製剤(リンゴペクチン含有)の急性下痢に対する有効性の確認 ☆対象:6ヶ月~5.5歳の子供 79 名
☆方法:プラセボ対照ランダム化二重盲検、並行群間比較、多施設試験
☆結果:試験薬摂取 3 日後、カミツレ群(n=39)はプラセボ群(n=49)と比較して、下痢の継続時間が少なくとも 5.2 時間有意に短縮された。カミツレ群は、下痢の継続的な改善と被験者の「効果に対する満足感」が高かった(カミツレ群 82% プラセボ群 60%)。

③精神状態の改善 J Clin Psychopharmacol.2009;29(4):378 / Altern Ther Health Med.2012;18(5):44
☆目的:カミツレ抽出物の全般性不安障害(GAD)の諸症状に対する有効性の確認
☆対象:軽度~中程度の GAD 愁訴: 18 歳以上 57 名
☆方法:ランダム化プラセボ対照二重盲検法 (カミツレ群 28 名 プラセボ群 29 名)
カミツレ抽出物 220mg~1100mg/日(徐々に増量)又はプラセボを経口摂取 8 週間
☆結果:カミツレ群は、ハミルトン不安評価尺度($p = 0.047$)およびハミルトンうつ病評価尺度($p < 0.05$)がプラセボ群と比較して有意に低下した。

V. 有効性の検証③ 国内イヌ臨床試験 :アトピー、脂漏性などの皮膚疾患 小動物臨床 Vol.23 No6 (2004.11)

☆対象:アトピー性、脂漏性など皮膚疾患と診断されたイヌ 51 頭
☆方法:カミツレ抽出物(カモミン[®] カミツレ 500mg/包)4 週間後に評価
内服(500mg/10kg/日)、外用(シャンプー剤に混入 250~500mg/10kg/回)
併用群 36 症例、内服群 11 症例、外用群 4 症例
☆観察項目:掻痒、発赤、油性脂漏、脱毛、色素沈着、皮膚肥厚など
☆結果:試験前後の変化
併用群:全ての観察項目において有意に改善($p < 0.01$)
内服群:全ての観察項目で改善。掻痒、発赤では有意に改善($p < 0.05$)
外用群:全ての観察項目で改善したが、有意差は認められなかった。
☆副作用:下痢、発赤、掻痒の悪化(5 例) カモミンとの関連性不明



VI. カミツレと安全性

☆急性毒性	LD ₅₀ > 2,000mg (ラット 経口投与)
☆禁忌 (ESCOP2003)	シカギク属 (<i>Matricaria</i>) およびその他キク科の植物に対して過敏症の方



アスク薬品株式会社

〒272-0138 千葉県市川市南行徳 3-15-6
TEL: 047-399-7598 FAX: 047-395-1831
URL: <http://www.askic.co.jp> E-mail: info@askic.co.jp

